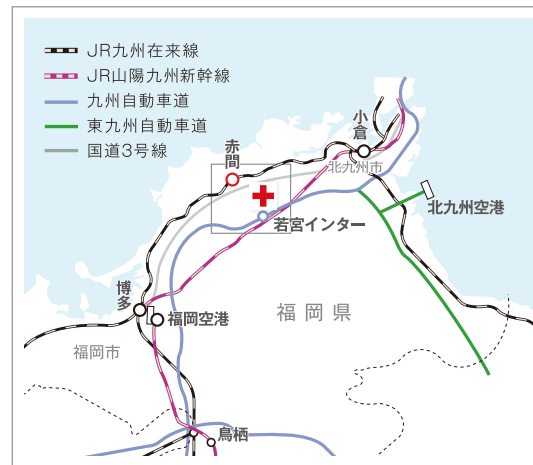
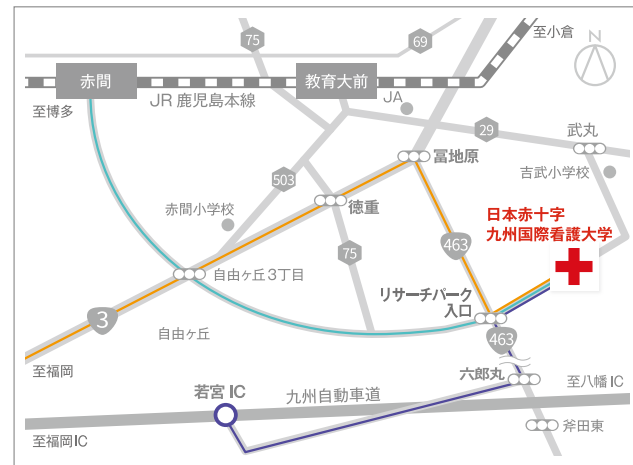


ACCESS

宗像市の郊外にある自然豊かなキャンパスは、
生命を尊び、慈しむことの大切さを学ぶにふさわしい
恵まれた環境にあります。



若宮インター(九州自動車道)より車で約20分 福岡空港より車で約50分



福岡空港からの車道 若宮インターからの車道 JR赤間駅からのバス路線

西鉄バス 赤間駅や天神から直行バスもあり、快適に通学できます。

天神日銀前から 直行バス 約 70 min	JR 赤間駅南口から 直行バス 約 15 min
-----------------------------	--------------------------------

[日赤看護大学行き]西鉄バスは、校内ゲート棟まで着きます。
授業の開始・終了に合わせて、天神から1日11便運行されています。
西鉄バス「天神日銀前」からの主な経由地
九州産業大学南口・庄(古賀市)・千鳥パークタウン・イオンモール福津前・玉丸など

JR

JR博多・小倉駅から JR&バス 約 50 min	JR博多・小倉駅から本校までのアクセス (JR&西鉄バスで約50分) 博多駅 約35分 小倉駅 約35分 赤間駅 約15分 日本赤十字九州国際看護大学
---------------------------------	---

JR赤間駅までの所要時間の目安(快速) 福岡市内から通学する学生もたくさんいます。

吉塚	千早	香椎	福工大前	古賀	福岡	折尾	黒崎
約 31 min	約 27 min	約 25 min	約 20 min	約 16 min	約 10 min	約 13 min	約 18 min



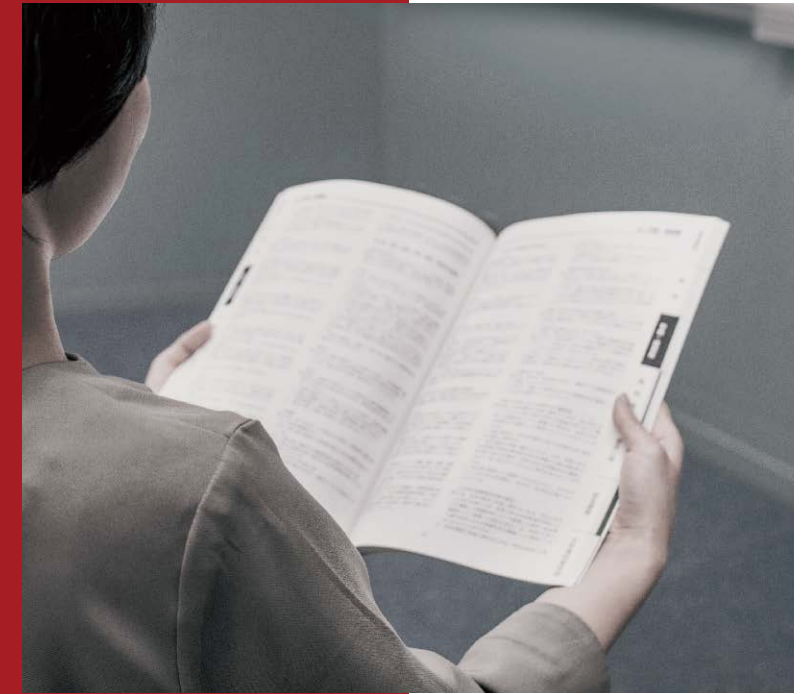
日本赤十字九州国際看護大学 大学院看護学研究科

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地 <https://www.jrckion.ac.jp/>
TEL: 0940-35-7001 FAX: 0940-35-7021

GUIDE BOOK

2022

Japanese Red Cross Kyushu
International College of Nursing
Graduate School of Nursing



日本赤十字九州国際看護大学
大学院 看護学研究科



世界規模の危機の中、「ひとりを看る目、その目を世界へ」 今こそ、「一人一人の命と尊厳を守る看護」を先導するあなたへ



日本赤十字九州国際看護大学は、2007年4月に大学院看護学研究科修士課程を開設、赤十字の人道の理念を基調としたカリキュラムにより、超高齢社会、グローバル社会における人々の多様な生活や価値観、健康ニーズに対応するための高度な看護を追求し、新たな知の創造を通して世界の人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成してきました。また、2016年からは、赤十字5大学と共同で博士課程を開設し、5大学の教育・研究を融合し、看護学の「知の共同体」のもと、独創性が高く社会的意義のある研究に果敢にチャレンジする人材の育成に取り組んでいます。

世界規模で新型コロナウイルス感染症の猛威が広がる中、赤十字の人道理念のもとに創設された本研究科の使命は極めて大きいといえます。大学院での学びは、どのような状況にあっても「一人一人の命と尊厳を守る看護」を先導するリーダーとして必要な、論理的思考、難局を乗り越えるための判断力と実行力、倫理的判断や価値形成を目指して頂きたいと思います。本大学院における学びにより、いまだかつてない危機に直面している世界中の人々に看護を通じて尽力できる力と勇気を身につけて頂きたいと願っています。

世界が直面している危機は一人では乗り越えることはできません。不確実で目まぐるしく変化が起こる中、つながりを感じることで前に進む勇気や力を沸かすことができます。種々の制約を強いられる日々が続きますが、年代も経験も異なる大学院生が教員との学術交流を通じて、新たな自分を発見し、変化する力や未来を冷静に看る目を養い、これからの社会を切り拓くことにチャレンジして下さい。

日本赤十字九州国際看護大学 学長 小松 浩子

多様な専門性と豊富な経験を持つ教授陣が キャリア形成の一步を全力で支援します



本学は、世界文化遺産の宗像大社がある宗像市に位置しています。2007年に大学院修士課程を開設し、2009年には助産教育コースを、2018年には高度実践看護師課程(専門看護師コース)を新設しました。博士課程は、2016年に5つの赤十字看護大学が共同教育課程として開設し、博士課程を有する稀少な単科大学となりました。

修士課程は、学部からの進学や社会人入学など様々なバックグラウンドの大学院生たちが、それぞれのキャリアデザインや夢の実現に向けて切磋琢磨しています。理論との統合により看護実践の知を確かなものとし、看護学や看護実践の場に貢献できる研究成果の創出を目指しています。このプロセスでは、専門分野ごとの指導に加え、他領域の専門的視点に基づいた指導も得られる等、研究が深化するための総合研究指導体制をとっています。また、職業と学業の両立を可能にするために、人的・物的環境調整を行い、大学院生個々の状況に即した指導・支援に努めています。

博士課程は、看護学や社会の発展に寄与する高度な研究能力の獲得やアドバンスな学問の探究を志す大学院生が集っています。5大学の教授陣による遠隔講義、演習、研究指導は、TV会議システムやスマート会議システムを活用していますので、出席可能な場所で受講することができます。多様な専門性と豊富な研究指導経験を有する教授陣から指導を受けられることも魅力の1つです。

人口の高齢化のみならず、科学の発展やAIの開発などの技術革新は目覚ましく、社会は複雑かつ多様化しています。Covid-19感染症拡大などニューノーマル時代の到来により、保健・医療・福祉にも大きな変革が求められています。一方で、不易流行も変わらず重要です。このような時勢にこそ柔軟に創造的に対応できるケアシステムの検討や看護の強みの再発見、実践知に貢献できる研究等に挑戦してみませんか?皆さんの大きな一歩を全力で支援いたします。

日本赤十字九州国際看護大学 大学院 研究科長 姫野 稔子

■ CONTENT

P01 学長・研究科長メッセージ	P10 研究論文発表会	P17 修了生コメント
P03 沿革	P11 授業科目一覧	P17 在校生コメント
P03 修士課程/特色・履修の流れ	P12 修士論文タイトル	P18 科目等履修生・お話し受講・入試相談会
P05 大学院の理念・目的	P13 共同看護学専攻/博士課程	P19 施設紹介
P07 コース紹介	P15 サポート体制	P21 入試情報
P10 研究指導体制	P16 教育課程等の概要	

沿革

History

日本赤十字九州国際看護大学は、学校法人日本赤十字学園の第4番目の看護学部看護学科として九州地区に開設されました。2007年4月に大学院を開設、2010年4月には大学院での助産教育を開始しました。更に、2016年4月には5つの赤十字看護大学との共同で、共同看護学専攻博士課程を開設しました。

- 2001年 4月 日本赤十字九州国際看護大学 開学
- 2006年 6月 大学院設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2006年11月 文部科学大臣から大学院設置の認可を受ける
- 2007年 4月 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科 開設
- 2009年 3月 財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※認定期間は2016年3月31日まで
- 2009年 6月 大学院看護学研究科看護学専攻「助産師学校」指定申請書を文部科学大臣に提出、受理される
- 2009年10月 文部科学大臣から大学院看護学研究科看護学専攻(助産コース)開設の認可を受ける
- 2010年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻(助産コース) 開設
- 2015年 3月 大学院共同看護学専攻博士課程設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2015年 8月 文部科学大臣から大学院共同看護学専攻博士課程設置の認可を受ける
- 2016年 3月 公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※認定期間は2023年3月31日まで
- 2016年 4月 大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程 開設
- 2017年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻(CNSコース) 開設
- 2018年 4月 大学院講義室・研究室 新設

看護学専攻 修士課程

Graduate School of Nursing

修士 学位取得のための3つのコース、7つの専攻領域

学位	修士(看護学)						
コース	教育・研究者コース				CNSコース		助産コース
領域	国際保健・国際看護学	生涯発達看護学	広域看護学	基盤看護学	クリティカルケア看護学	在宅看護学	助産学
分野	<ul style="list-style-type: none"> 国際看護学・災害看護学 ヘルスプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> 成育看護学(小児・母性) 成人看護学(慢性) 老年看護学 	<ul style="list-style-type: none"> 精神看護学 在宅看護学 クリティカルケア看護学 	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理学 看護教育学 看護倫理学 			

CNSコース(精神看護学、老年看護学)設置認可申請中

研究科修士課程の特色

研究方法を強化した共通科目

本学の共通科目の特色として、研究方法(研究方法総論)、研究方法A-I(量的研究方法の基礎)、研究方法B-I(質的研究方法の基礎)、研究方法A-II(量的研究方法)、研究方法B-II(質的研究方法)といった研究方法を学ぶ科目が多くあります。質的研究と量的研究に対するきめ細やかな指導を行い、大学院生の研究能力向上を支援します。

充実した研究環境

共同研究室には、大学院生一人ひとりが研究活動に専念できるように、専用のデスク、パソコン(SPSS搭載)が準備されています。また、全館Wi-Fi対応で、いつでもどこでもインターネットや文献検索に必要な医療系データベースに接続できます。一部のデータベースは、学外からのアクセスも可能です。なお、講義室Aには、電子黒板等の機材を配備し、研究発表の練習や他領域の大学院生とのディスカッションなど新たな協同学習の場も整えています。

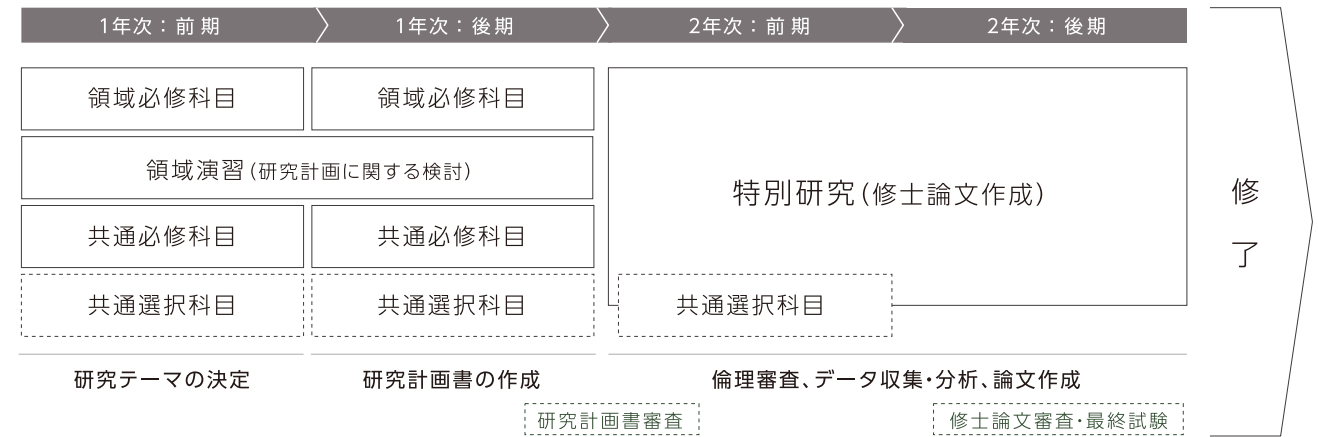
社会人への配慮

金曜日と土日に授業が集中しているため(助産コース、CNSコース除く)、1年間で大半の科目履修ができます。2年目は、修士論文を作成するための多くの時間を確保することができます。なお、大学院入学前に、本学大学院で科目等履修生として修得した単位は、大学院入学後の修得単位として15単位まで認められます。このように、社会人が働きながら本学で修士号を取得しやすいようにきめ細やかな対応をしています。

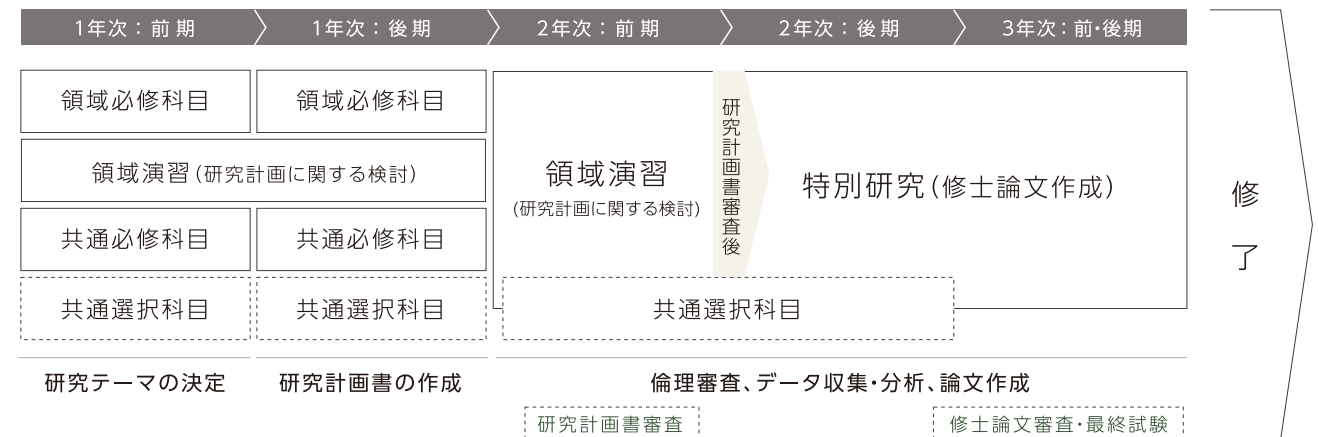
領域の垣根を越えた指導体制

一つの領域は複数の分野で構成されています。たとえば、成育看護学(小児・母性)、成人看護学(慢性)、老年看護学は独立した専門分野ですが、この3分野は生涯発達看護学という領域に位置付けられています。一見、専門性が違う分野であっても、生涯発達という時間の経過でとらえなおすと対象の健康問題を包括的にとらえることができます。さらに、領域の垣根を越えた指導体制としては、研究方法(研究方法総論)を受講した大学院生は、領域の違いを越えて、論文をクリティックする方法を合同演習で学びあいます。

入学から修了までの履修の流れ ①標準課程



入学から修了までの履修の流れ ②長期履修課程*



* 3年間で履修する課程です。職業を持っている人などは、ゆとりをもって着実に履修できます。1年次、もしくは2年次に研究計画書の審査を経て、3年次に修士論文の審査と最終試験に合格後、修士の学位が授与されます。長期履修制度は、入学時に申請が必要です。履修年限の短縮申請は、在学中1回のみ認められます。長期履修制度を利用した場合においても、総納付金額は通常の2年コースと同額です。

1 大学院の理念・目的

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

2 大学院の目的

- 1) 修士課程は、広い視野に立って深い学識を教授し、人間性を涵養するとともに、看護学における研究能力又は高度な専門性を必要とする看護職者としての高い能力を培うことを目的とする。
- 2) 後期3年博士課程は、看護学研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる幅広く豊かな学識を養うことを目的とする。

3 大学院の教育目標

赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標とする。

入学者受け入れの方針

アドミッション・ポリシー

本学修士課程は、赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標としています。このような教育目標の下、本学修士課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育を行っています。こうした教育を受けるための条件として、次に掲げる倫理観、基本的能力、態度を有する大学院生を求めます。

- 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観を有する人
- 基礎学力、専攻領域の基本的知識・思考力を身につけている人
- 看護・保健専門職として研究する基礎的能力を有する人
- 主体的に国内外の健康問題について学び、多職種と協働して社会に貢献する態度を有する人

教育課程の編成・実施方針

カリキュラム・ポリシー

本学修士課程は、その掲げる教育理念および教育目的・目標を達成するために研究・教育者を指す「教育・研究者コース」と、高度実践看護師を目指す「CNSコース」、助産師国家試験受験資格取得を目指す「助産コース」を設置し、看護学の研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。修士課程の教育目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の修得を目指し、コース別に、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針（教育課程編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価）に基づいた教育課程を展開します。

カリキュラムの体系をわかりやすく示すために、学位取得までのプロセス、カリキュラムマップ、コースツリー、履修モデル、履修の流れを明示します。

教育課程編成

【修士（看護学）】教育・研究者コース、CNSコース、助産コース

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究するために、学修の基盤となる共通科目を置いています。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置いています。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究または課題研究（CNSコースおよび助産コース）を設定しています。
- 5) 研究者・教育者、高度実践看護師、助産師という多様な目的を有する学修者が領域を横断して学問を探究できるよう合同演習を置いています。

「CNSコース」は、上記1～5に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 6) 卓越した看護実践能力を育成するために、それぞれの専門看護師資格認定に必要な科目を置いています。
- 7) 専門看護分野のケアの質改善に向けた課題を探究するために、文献クリティーク演習および課題研究を設定しています。

「助産コース」は、上記1～5に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 6) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するための実践能力を育成するために、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を置いています。
- 7) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種と連携するための能力を育成する科目を置いています。
- 8) 人の一生における性と生殖をめぐる健康課題を分析し、健康・権利を守る援助を探究するために文献クリティーク演習および課題研究を設定しています。

学修方法・学修過程

- 1) コースワーク（科目の履修）とリサーチワーク（修士論文の作成）を計画的に進めていくことができるように、教育課程を編成し、実施します。入学時および学期初めに、研究指導教員は大学院生自身が履修計画を立案し、計画的に学修を進めていくことができるように履修指導を行い、学修を継続的に支援します。
- 2) ディプロマ・ポリシーに掲げた多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、保健・看護専門職として課題を探究するための能力を育成するために、学修の基盤となる科目（共通必修科目および共通選択科目）と、専門性の発展・進化を目指す科目（専門科目）を順序性や関連性を考慮して配置することによって、大学院生の目的に合わせて、多様な観点から学問を探究していくことができるようにしています。
- 3) 保健学・看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を育成するために、複数の研究科目を置き、科目間で連携を図りながら、基本から応用へと段階的、体系的に研究方法を学べるように授業を運営します。
- 4) 修士論文の作成に向けては、研究指導教員・研究指導補助教員による一貫した継続的な指導を行います。また、合同演習、研究計画発表会、研究中間報告会、修士論文発表会を段階的に設定することで、専門領域の垣根を超えた多角的な視点からの意見交換ができ、大学院生の自律的・学際的な研究活動の支援に繋がります。

学修成果の評価

- 1) 学修成果の評価は、科目の成績、修得単位数、修士論文、最終試験、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価によって行います。
- 2) 科目の成績は、シラバスに示す評価方法・割合に基づき、科目担当者がS～Dの5段階で評価します。
- 3) 修士論文の評価は、学生便覧に示す審査体制・審査基準・審査方法に基づき審査を行い、可否を判定します。
- 4) 最終試験は、学生便覧に示す評価基準・評価方法に基づき実施し、A～Dの4段階で評価します。
- 5) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価については「修了時の能力を評価する指標」を用いて、修了時に自己評価および研究指導教員による他者評価を行い、4段階で達成度を評価します。また、中間期にも同指標を用いて自己評価および他者評価を実施し、結果をフィードバックすることで、ディプロマ・ポリシーの達成に向けた学修支援に繋がります。

修了認定・学位授与の方針

ディプロマ・ポリシー

本学修士課程に所定の期間在学し、研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文の審査および最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に修士の学位を授与します。

【修士（看護学）】

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。
- 5) 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職としての役割を發揮する能力を有している。

「CNSコース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有している。
- 7) 専門看護分野において、ケアの質を評価し、ケアの質改善に向けた取り組みができる能力を有している。

「助産コース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助ができる能力を有している。
- 7) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するように、根拠に基づいて助産ケアを実践できる能力を有している。
- 8) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携ができる能力を有している。



教育・研究者
コース

国際保健・国際看護学領域

健康は国際社会の共通の課題です。国内外での大規模な災害の多発、貧困、健康格差、高齢化の全世界的進行など、健康を脅かす要因は複雑・多様化しています。地域で暮らす人々が安全・安心かつ健康な生活を営むためには学問分野を統合した教育・研究が必要です。本領域では、災害・国際協力とヘルスプロモーションの分野が協働し、国際保健・国際看護領域の課題を多角的・構造的に探究し、個人・集団の健康と生活支援の実践計画策定の指導を行います。もって、国内外を問わず個人・集団の健康と安全に貢献できる、高い専門性と実践力を備えた人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
国際看護学 災害看護学	災害、貧困、健康格差などの問題は国内外を問わず頻発しており、人々の健康や生活に影響を及ぼしています。本分野では、このような問題を様々な観点から深く洞察し、看護の役割について探究します。	小川 里美 教授
ヘルスプロモーション	高齢化の世界的な進行は、個人の健康増進を集团的にサポートするヘルスプロモーションを必要としています。コミュニティを地域社会、職場など広くとらえ、一人ひとりのライフスタイルを考慮した健康生活支援について探究します。	守山 正樹 教授 緒方 文子 准教授

研究指導テーマ ※ 出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小川 里美 教授 s-ogawa@jrckicn.ac.jp

- 国際協力における人材育成に関する研究
- 紛争被災国における看護教育、看護政策に関する研究
- 災害看護に関する研究

教育・研究者
コース

生涯発達看護学領域

国際化を含む生活様式の多様化は人の一生に新たな課題を生じさせているため、そうした課題に取り組む人材の育成が必要です。本領域は、成育看護(小児・母性)、成人看護(慢性)、老年看護の3つの分野で構成され、発達段階における特徴的な健康問題を専門的に探究するとともに、グローバルな保健分野の問題をも探究できる人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
成育看護学 (小児・母性)	子どもの成長・発達段階を踏まえて、子どもと親、家族、地域との関係をネットワークという視点を通して学びます。小児医療を取り巻く環境の変化および多職種連携についても最新の知見について探究します。助産師国家資格を取得後にも、性と生殖に関する発達課題を学び、その健康・権利を守る援助と親役割獲得のための支援について探究します。	永松 美雪 教授
成人看護学 (慢性)	現代の健康問題の多くは慢性疾患との関連が深く、医療の進歩や高齢化によって問題は複雑化しています。予防からエンド・オブ・ライフケアまでの長期的視点および国内外の最新の知見に基づき、慢性期にある人の健康問題の本質と解決策を探究します。	小松 浩子 学長 中村 光江 教授
老年看護学	国内外の諸理論を通して老年看護の場で生じる現象への理解を深め、生活モデルを通して老年看護の可能性や本質を探究します。また、高齢者やその家族が健康的で質の高い生活を送るための看護援助について探究します。	姫野 稔子 教授 原田 紀美枝 准教授 梶原 弘平 准教授

研究指導テーマ ※ 出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授 m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp

中村 光江 教授 m-nakamura@jrckicn.ac.jp

- 親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究
- 男女間暴力・性暴力被害に関する研究
- 望まない妊娠・性感染症に関する研究
- 慢性病とともに生きる人への看護に関する研究(当事者経験の探究と理解、療養のための行動変容など)
- 慢性病を持つ人へのエンド・オブ・ライフケアおよび緩和ケアに関する研究(倫理的課題、意思決定支援を含む)
- 看護事例研究、看護の実践知に関する研究、ナラティブ・アプローチや現象学に基づく看護現象の記述方法の探求

姫野 稔子 教授 t-himeno@jrckicn.ac.jp

- 高齢者ケアに関する研究(ケア介入プログラムの開発、介入効果の評価・測定など)
- End-of-Life Care、ターミナルケア、終末期ケアに関する研究
- 看護用具・介護用具の効果の測定・評価

教育・研究者
コース

広域看護学領域

誰でもが遭遇しうる多様な健康の課題を、精神看護、在宅看護、クリティカルケア看護といった異なった分野から探究し、今後の課題に対して、専門的かつグローバルに関与できる人材の育成をめざします。本領域は、精神看護学、在宅看護学、クリティカルケア看護学の3つの分野から構成されます。



分野	分野の特徴	担当教員
精神看護学	施設内外を問わず、健康問題を抱える対象者やケアを提供する看護師のメンタルヘルスに関する課題解決を探究します。グローバル化時代に対応するための新たな看護支援を探究します。	高橋 清美 教授 石飛 マリコ 准教授
在宅看護学	在宅ケアを取り巻く社会的な背景や政策的な方針を踏まえた上で、在宅ケアにおける課題について探究します。また、活用できる概念や諸理論、研究動向から在宅看護の専門性について探究します。	西村 和美 准教授
クリティカルケア看護学	クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護について、国内外の知見の系統的分析と、関連する諸理論や概念を用い、クリティカルケアの専門性について探究します。	—

研究指導テーマ ※ 出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

高橋 清美 教授 k-takahashi@jrckicn.ac.jp

- 精神障がい者の食支援に関する研究
- 気分障害への支援に関する研究
- 地域で暮らす精神障がい者への支援に関する研究

教育・研究者
コース

基盤看護学領域

現在、グローバル化した世界では、ものや情報は激しく交流し、人のライフスタイルも激変しています。また、医療技術も著しく進歩していますが(人を見る)という看護の本質は不変です。本領域では、このような社会の変化を視野に入れて、時代に応じた質の高い看護を個人・組織・専門職集団レベルで提供していくために必須となる組織マネジメントや看護政策、人材育成の方法論、看護倫理について、多角的・専門的に探究します。本領域は、看護管理学、看護教育学、看護倫理学の3つの分野から構成され、看護実践の基盤構築に貢献できる看護実践者・看護教育者・看護管理者の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
看護管理学	看護管理の中核的役割を担う人材を育成するために、医療・看護提供システムや看護政策、組織マネジメントに関する諸理論、方法論を探究します。また、マネジメント上の課題を多角的に分析することで、課題解決に向けた方策を探究します。	倉岡 有美子 教授
看護教育学	看護基礎教育・看護継続教育を担う人材を育成するために、看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論を探究します。また、これらの知見をもとに教育・学習活動の実践例を考察し、課題解決に向けた方策を探究します。	本田 多美枝 教授 阿部 オリエ 准教授
看護倫理学	さまざまな看護の場で、個々人の立場・背景による価値の違いによって倫理的問題(ジレンマ、課題等)が生じています。自らの感受性を高めながら、諸理論や分析方法を通して問題の本質と解決策を探究していきます。	柳井 圭子 教授

研究指導テーマ ※ 出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

倉岡 有美子 教授 y-kuraoka@jrckicn.ac.jp

本田 多美枝 教授 t-honda@jrckicn.ac.jp

- 看護管理者の能力開発に関する研究(経験学習やコンピテンシーを基盤としたアプローチなど)
- 看護組織の変革、看護管理者のリーダーシップに関する研究
- 看護管理と倫理に関する研究(高齢者の看護施設に関する意思決定支援を含む)
- 看護職の人材開発に関する研究(看護学生、新人からベテランまでの各期の特性に応じた生涯学習支援、教育方法の開発など)
- リフレクション、ナラティブアプローチなどを活用した看護職の実践力開発・熟達化に関する研究
- 看護・看護教育の現象解明・概念化に向けた研究

阿部 オリエ 准教授 o-abe@jrckicn.ac.jp

柳井 圭子 教授 k-yanai@jrckicn.ac.jp

- 臨床実習の場における、学生への教育方法・指導に関する研究
- 看護継続教育における人材育成に関する研究
- 看護・看護教育の現象解明に向けた研究
- 看護に関する法制度研究(看護師の責任論、実務拡大への戦略的取り組み等)
- 看護の倫理的問題に関する研究(生・性から死に至る倫理的葛藤と倫理的課題克服)
- 暴力・虐待等の防止に向けた看護実践に関する研究

助産コース 助産学領域

社会的要請に対応できる助産師としての専門的基礎的能力に加え、幅広い視野と科学的洞察力を持った、新たな助産のあり方を探究できる人材の育成を目指します。また、専門的知識の習得とともに母子保健分野における課題探究能力を備えた専門職および研究者を育成します。さらに国内外を問わず、女性および母子の健康問題に対して多角的な視点で考えることのできる資質を涵養します。



領域	領域の特徴	担当教員
助産学	人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助を探究します。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期における根拠に基づく助産ケアを学びます。さらに、助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携を目指します。必要な科目を履修し、単位を修得することで、助産師国家試験受験資格が得られます。	永松 美雪 教授 石山 さゆり 准教授 園田 希 講師

研究指導テーマ ※ 依頼を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授 m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp	石山 さゆり 准教授 s-ishiyama@jrckicn.ac.jp
<ul style="list-style-type: none"> 親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究 男女間暴力・性暴力被害に関する研究 望まない妊娠・性感染症に関する研究 	<ul style="list-style-type: none"> カオス・複雑系の視点を用いた看護に関する研究 胎児期からのこどもの発達に関する研究 親子関係の発達に関する研究

CNSコース 在宅看護学領域

本大学院は、「在宅看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程 38単位）として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する在宅療養者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。



領域	領域の特徴	担当教員
在宅看護学	本領域は、在宅看護専門看護師の育成をめざします。在宅看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度なケアの実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって在宅看護領域における新しい課題に取り組み、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割が担える人材を育成します。	小野 ミツ 教授 西村 和美 准教授

研究指導テーマ ※ 依頼を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小野 ミツ 教授 m-ono@jrckicn.ac.jp
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の介護予防に関する研究 認知症者と介護家族の支援に関する研究 高齢者虐待防止に関する研究

CNSコース クリティカルケア看護学領域

本大学院は、「クリティカルケア看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程 38単位）として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。

領域	領域の特徴
クリティカルケア看護学	本領域は、クリティカルケア看護専門看護師の育成をめざします。クリティカルケア看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもってクリティカルケア看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。

CNSコース（精神看護学、老年看護学） **設置認可申請中。** 詳細については、ホームページをご確認ください。

研究指導体制

研究指導は、1名の研究指導教員と1名以上の研究指導補助教員の計2名以上で行います。研究指導教員と研究指導補助教員は、修士論文の作成に至るまで一貫した研究指導を行います。

本大学院での研究指導においては、総合研究指導体制を採用しています。これは、大学院生の研究指導において専門分野の主たる指導教員に加えて、領域を横断して研究指導を受けることができる体制をいいます。これにより、大学院生は、専門領域の研究をすすめながら、領域を超えた視点や論点から、自分の研究を検討し、さらなる進展を図ることが可能になります。

リベラルアーツ・専門基礎教員／研究テーマ

高瀬 文広 教授

・ コ・メディカルスタッフや患者を対象とした対人コミュニケーションや異文化コミュニケーションの研究

中山 晃志 教授

・ 人口推計システムに関する研究／看護・保健医療データの多角的な視点からの分析



研究論文発表会

修士論文発表会

令和3年3月12日(金)



修士論文を提出した7名の大学院生が、研究の成果を発表し、集まった教員・大学院生が熱心に耳を傾けていました。大学院生は、助産師国家試験受験資格取得や仕事との両立というそれぞれの使命を全うしながら、標準課程あるいは長期履修課程という時間的制約のなかで、課題研究や特別研究に取り組んできました。その成果は社会的にも学術的にも貢献し得る価値あるものとなっていました。質疑応答では、多くの教員から研究内容を問う質問だけでなく、今後の学会発表や投稿等の公表に向けたアドバイスもあり、とても有意義な発表会となりました。

研究計画発表会

令和3年2月19日(金)



大学院に入学してから1年が経過しようとする大学院生の、研究内容についての研究計画発表会が実施されました。短い時間の中で、各領域の指導教員の指導を受けながら、研究計画書を作成・発表することができました。発表終了後の質疑応答では、多くの教員から内容についての質問や今後の研究活動に対するアドバイスがあり大学院生にとって貴重な経験となりました。

授業科目一覧

区分	授業科目	単位数	時間数	履修方法及び修了要件①	履修方法及び修了要件②						履修年次及び単位数			
					教育・研究者コース		CNSコース		助産コース		1年次		2年次	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	①	②	③	④
専門科目	国際保健・国際看護学 ○国際看護学・災害看護学 ○ヘルスプロモーション	国際保健・国際看護学特論Ⅰ※	2	30	●	○					2			
		国際保健・国際看護学特論Ⅱ	2	30	●						2			
		演習(国際保健・国際看護学)	4	120	●						4			
		特別研究(国際保健・国際看護学)	4	120	●								4	
	生涯発達看護学 ○成育看護学(小児・母性) ○成人看護学(慢性) ○老年看護学	生涯発達看護学特論Ⅰ※	2	30	●	○					2			
		生涯発達看護学特論Ⅱ	2	30	●						2			
		演習(生涯発達看護学)	4	120	●						4			
		特別研究(生涯発達看護学)	4	120	●								4	
	広域看護学 ○精神看護学 ○在宅看護学 ○クリティカルケア看護学	広域看護学特論Ⅰ※	2	30	●	○					2			
		広域看護学特論Ⅱ	2	30	●						2			
		演習(広域看護学)	4	120	●						4			
		特別研究(広域看護学)	4	120	●								4	
	基礎看護学 ○看護管理学 ○看護教育学 ○看護倫理学	基礎看護学特論Ⅰ※	2	30	●	○					2			
		基礎看護学特論Ⅱ	2	30	●						2			
		演習(基礎看護学)	4	120	●						4			
		特別研究(基礎看護学)	4	120	●								4	
	クリティカルケア看護学	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2	30			●				2			
		クリティカルケア看護学特論Ⅱ	2	30			●				2			
		クリティカルケア看護学特論Ⅲ	2	30			●				2			
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	60			●				2			
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	60			●				2			
		クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2	60			●				2			
		クリティカルケア看護学演習Ⅳ	2	60			●				2			
		クリティカルケア看護学実習Ⅰ	5	225			●						5	
クリティカルケア看護学実習Ⅱ		5	225			●						5		
在宅看護学		在宅看護学特論Ⅰ	2	30			●				2			
	在宅看護学特論Ⅱ	2	30			●				2				
	在宅看護学特論Ⅲ	2	30			●				2				
	在宅看護学特論Ⅳ	2	30			●				2				
	在宅看護学特論Ⅴ	2	30			●				2				
	在宅看護学演習Ⅰ	2	60			●				2				
	在宅看護学演習Ⅱ	2	60			●				2				
	在宅看護学実習Ⅰ	2	90			●				2				
	在宅看護学実習Ⅱ	3	135			●						3		
	在宅看護学実習Ⅲ	3	135			●						3		
在宅看護学実習Ⅳ	2	90			●						2			
専門科目	助産学	助産学総論	1	30			●				1			
		ウィメンズヘルスⅠ	1	15			●				1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	30			●						2	
		リプロダクティブ・ヘルス	2	30			●				2			
		女性のフィジカルアセスメント	1	15			●				1			
		妊娠期のアセスメントとケア	2	30			●				2			
		分娩期のアセスメントとケア	2	30			●				2			
		産褥期・新生児のアセスメントとケア	2	30			●				2			
		周産期学(正常編)	1	15			●				1			
		周産期学(異常編)	1	15			●				1			
		新生児学	2	30			●				2			
		助産と薬理	1	15			●				1			
		地域母子保健	2	30			●				2			
		助産経営管理学	2	30			●				2			
		フィールドワーク演習	2	30			●				2			
		助産基礎実習	8	360			●				8			
助産所実習	2	90			●				1		1			
新生児集中ケア基礎実習	1	45			●						1			
共通科目	保健・看護総合特論	看護理論	2	30	●				○		1			
		看護倫理	1	15	●				○		2			
		グローバルヘルス	1	15	●				○		1			
		専門外国語講義Ⅰ	1	15	●				○		1			
		研究方法(研究方法総論)	2	30	●		●			○	2			
		研究方法A-I(量的研究方法の基礎)	1	15		○				○		1		
		研究方法B-I(質的研究方法の基礎)	1	15		○				○		1		
		研究方法A-II(量的研究方法)	1	15		○				○		1		
		研究方法B-II(質的研究方法)	1	15		○				○		1		
		看護教育論	2	30		○				○		2		
		看護管理論	2	30		○				○		2		
		看護政策論	1	15		○				○		1		
		専門外国語講義Ⅱ	2	30		○				○			2	
		フィジカルアセスメント特論	2	30		○	●			○		2		
		病態生理学特論	2	30		○	●			○		2		
		臨床薬理	2	30		○	●			○		2		
		コンサルテーションⅠ	1	15		○		○		○		1		
		コンサルテーションⅡ	1	15		○		○		○		1		
		専門実習Ⅰ	2	90		○				○		2		
		専門実習Ⅱ	2	90		○				○		2		
文献クリティック演習	2	60			●				2					
課題研究	2	60			●					2		2		
計														

[教育・研究者コース]30単位以上
[CNSコース]42単位以上
[助産コース]59単位以上

※教育・研究者コースにおいて、各領域の特論Ⅰは、当該領域の大学院生がない場合は、開講しません。
※カリキュラムは変更承認申請中。

修士論文タイトル一覧

令和2(2020)年度

- 日本とイギリスにおける医療的ケア児と家族への支援に関する文献研究
- 諸外国における妊婦梅毒・先天梅毒増加の背景要因と妊娠期における予防対策に関する文献検討
- 就労女性へのマタニティハラスメントに関する研究動向と課題
- 出産後の在日外国人女性に対して看護職者が行う入院中の育児支援に関する文献研究
- 児童虐待加害者への支援の現状と課題に関する文献研究
- 3年課程看護師養成所の教務主任が捉えた専任教員を育成する上での課題と解決に向けた取り組み
- 教育経験10年以上の看護系大学における看護教員の「一皮むけた経験」

令和1(2019)年度

- 新生児期の特別養子縁組における教育入院での養親と養子の愛着形成のための看護職者の支援
- わが国における個性のある母乳育児ケアに関する文献研究
- 生殖補助医療と分娩の両方を行う施設で妊娠・出産した女性が受けた支援と体験
- 成人前期における情報活用の実践力がHIV感染予防に関する技能に及ぼす影響
- 夫婦で不妊治療を受けた男性が抱く思いと医療従事者に求める対応 -不妊治療から児出生までに焦点を当て-
- NICUに入院した低出生体重児を持つ父親の面会時の思いと医療従事者へ求める支援
- 熊本地震発生後1週間以内における被災者の心理状態 -新聞記事を用いた質的記述的分析-
- 急性期病院においてヒヤリ・ハットを複数回経験した新人看護師への看護師長の関わり
- 最大歩行速度に関連する下肢筋肉への運動プログラムによる効果の検討 -高齢者の歩行能力、バランス能力、日常生活活動の変化-
- ドミニカ共和国公立病院で看護スタッフが副業をもちながら働くことに対する看護師長の認識と対応
- 看護職妊婦の妊婦エンパワメントの変化 -助産師チームによるアクションリサーチを通して-

平成30(2018)年度

- 転職した看護師が語るキャリアアップについての研究
- 対象に応じたバースレビューの有益性と課題に関する文献研究
- 熊本地震の急性期において初めて避難所での支援活動を行った一助産師の事例報告
- 反復人工妊娠中絶のケアに対する助産師の思いの変化
- 妊娠から育児期の摂食障害を持つ女性とその周囲の人々の特徴に関する文献研究
- 在宅療養中の慢性呼吸不全患者におけるセルフマネジメント支援に関する文献研究
- フライトナースの専門職連携実践能力の実態
- 新卒小児看護師が勤務継続の原動力を獲得していく体験の様相
- 看護系大学生における自己調整学習方略の実態と学年及び自己効力感、内発的価値との関連

平成29(2017)年度

- 幼児をもつ父親の子育ての体験
- 帝王切開出産から約1年以上が経過した女性の出産経験
- 共働き多子世帯における父親の育児家事と家族への思いの変化
- 父親の発達に関連する要因 -3歳~12歳の障がい児の親を対象として-
- 介護老人福祉施設で働く看護師のオンコール勤務状況と蓄積的疲労との関連
- 重症心身障害児(者)病棟の中堅看護師が行う臨床判断とその特徴
- 急性期病院で行われる認知症高齢者の院内小集団ケアに携わる看護師に生じた変化
- 回復期機能をもつ内科系病棟の中堅看護師による患者・家族への退院支援
- ALS療養者が自宅で最期まで生き抜くための診断初期からの地域の看護職の支援の在り様
- 高齢統合失調症入院患者の低栄養の要因 -低栄養群と非低栄養群との比較研究-
- 青年海外協力隊(Japan Overseas Cooperation Volunteers)への参加を節目として経験した看護職のキャリアデザイン
- 臨床実習において実習指導者が自らの看護実践を看護系大学生に語ることの意味
- 臨床における看護師の倫理的感受性の育成

共同看護学専攻 博士課程

Graduate School of Nursing

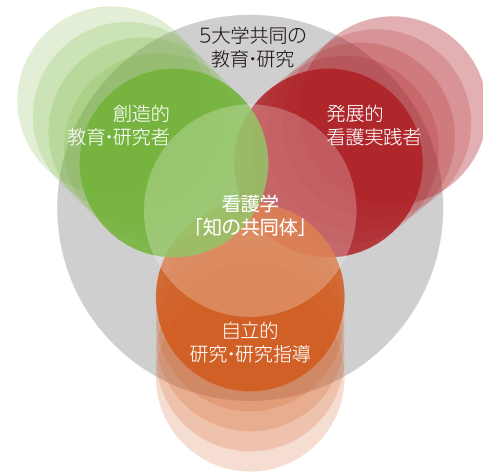
あらゆる看護現象へアプローチできる 研究者・実践者の養成をめざす

5

つの大学は
看護学の
「知の共同体」

高い専門性で社会貢献

理論や実践方法の創造ができる教育・研究者へ
自立した研究・研究指導ができる研究者へ
発展的に看護を実践できる実践者へ



3年間の教育・研究スケジュール

※長期履修制度あり

	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次		
前期	4月	入学式 ガイダンス 主研究指導教員決定	ガイダンス 前期授業開始 研究計画書 提出①	ガイダンス 前期授業開始	10月	後期授業開始 合同研究セミナー 副研究指導教員決定	後期授業開始	後期授業開始
	5月	合同ガイダンス 前期授業開始			11月			博士論文・審査願 提出
	6月		研究計画書 提出②		12月			
	7月				1月	*研究計画書提出	研究計画書 提出④	
	8月				2月	後期授業終了	後期授業終了	後期授業終了
	9月	前期授業終了	前期授業終了 研究計画書 提出③	前期授業終了	3月			博士論文発表会 学位記授与式

*研究計画書は1年次の1月の提出も可能です。

共同看護学専攻(博士課程)の特色・教育理念等

特色

- 学位は、共同教育課程を構成する5大学の連名により、授与されます。
- 学生は、主指導教員が在籍する大学に学籍を置くことになります。
- 学生は、5大学の施設等を利用することができます。
- 学生は、学籍を置く大学以外の大学の副指導教員からも、研究指導が受けられます。
- テレコミュニケーションを利用した遠隔授業により、各大学で開講する講義を、学籍を置く大学から受講することができます。

学位

博士(看護学)

教育理念

赤十字の理念である「人道(humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としています。また、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者及び、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指します。

教育目標

共同看護学専攻では、次のような能力を養うことを目標とします。

- 1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- 2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- 3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- 4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

育成する人材

5大学が共同し教育を行うことで教育の内部質保証・向上を図りながら、次のような人材を養成します。

- 1) 質の高い看護学の教育および研究指導ができ、それぞれの地域で活躍する人材
- 2) 自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力および基礎となる豊かな学識を備え、看護学分野の研究をリードでき、それぞれの地域の看護研究・看護教育のリーダーとなる人材
- 3) 医療施設等の臨床において看護の質を管理し、継続教育を実践でき、それぞれの地域の看護実践・看護教育のリーダーとなる人材
- 4) 看護実践に対する理論の構築、看護方法論の開発・創造ができ、看護実践のリーダーとなる人材
- 5) 国内外の保健・医療・福祉の分野で創造的な活動ができ、それぞれの地域で保健・医療・福祉分野のリーダーとなる人材
- 6) 未知なる健康課題の発生に対して迅速・的確に対応し、その成果を社会に還元できる人材
- 7) 国内外における災害救護・災害看護を実践するための有用な理論構築ができ、国内外で人道的任務を果たせる人材

アドミッション・ポリシー

共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道(humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求めています。

- 1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- 2) 常に探求心を持ち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- 3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- 4) 様々な分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- 5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- 6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

博士課程 教員紹介

出願を希望する方は、出願前に研究指導を希望する教員と面談し、入学後の研究・学修活動について相談を行う必要があります。
まず、**事前面談の予約**を行う必要がありますので、研究指導を希望する教員までご連絡ください。

小松 浩子学長

0940-35-7010

h-komatsu@jrckicn.ac.jp

がんや慢性疾患とともに生きる人やその家族の支援、ならびに百寿者を含む高齢者の支援に関する研究指導を行います。

姫野 稔子教授

0940-35-7026

t-himeno@jrckicn.ac.jp

老年期にある対象者や家族への支援、倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行います。

高橋 清美教授

0940-35-7502

k-takahashi@jrckicn.ac.jp

精神障がい者の支援に関する研究、地域における精神疾患に関する課題に焦点をあてた研究指導を行います。

永松 美雪教授

0940-35-7072

m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因の分析、その支援と予防モデルの開発に焦点を当てた研究指導を行います。

本田 多美枝教授

0940-35-7037

t-honda@jrckicn.ac.jp

キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行います。

大学院でのサポート体制

教育方法

本共同看護学専攻では、対面での集合教育および個人指導の教育方法に加えて、日本赤十字学園専用のひかり回線で結ぶ遠隔教育システムを活用した特徴的な教育方法を用います。同システムの品質の高い映像・音声によって、通常の対面授業とほぼ同様なリアルタイムの双方向授業が5大学間で可能となります。学生の皆さんに、5大学の強みを活かした教育の場を設定するとともに、移動にかかる身体的・経済的な負担を軽減できるように努めています。

また、社会人学生の受け入れに関しては、長期履修制度を設けたり、夜間開講などの時間割の配慮を行います。

遠隔授業のイメージ

日本赤十字学園専用の遠隔教育システム（ハイビジョン画像・高音質・双方向・リアルタイム）で、5大学の担当教員から同時に多様な教育・研究指導を受けられます。例えば、九州に在籍していても、遠隔授業で北海道の講義を受けることができます。

もちろん、直接、北海道で受講することも可能です。



長期履修制度

職業を有しているなどの事情で標準の修業年限（3年）では修了することが困難となる者を対象に、長期（4年）にわたり計画的に教育課程の履修を認める制度です。その場合は、授業料等の支払い方法が変更になります。

詳細は大学院学生募集要項をご参照ください。

教育方法の特例

共同看護学専攻では、実務経験を有する有識者などの社会人を受け入れる場合の教育上の配慮として、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)による教育を実施しています。適用が認められた場合には、以下の①～③の履修指導及び研究指導の方法を実施することができます。適用を希望する者は、事前面接の際に、研究指導を希望する教員に申し出てください。

- ① 授業は、基本的に夜間及び土曜日に開講します。長期休業期間などに開講し、単位修得のための便宜を図ります。
- ② 研究指導及び論文作成指導も上記と同様に便宜を図ります。必要に応じ、多様なメディアを利用して指導します。
- ③ 授業科目、履修方法、履修指導、研究指導、修了要件等は、一般学生と同様です。履修計画の指導にあたり、講義・演習・研究指導等については、必要な場合、集中的に開講します。

教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学	1	○		
	赤十字人道援助論	1・2後	日本赤十字秋田看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)	1・2前	開講せず	1	○		
	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	臨床倫理論	1・2後	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字北海道看護大学	1	○		
小計(9科目)	—	—	—	9	—	—	—
専門科目	看護人材開発特論	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○		
	療養生活看護学特論	1・2前	A 日本赤十字北海道看護大学 B 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2	○		
	生涯発達看護学特論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字北海道看護大学	2	○		
	実践看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字北海道看護大学	2	○		
	広域連携看護学特論	1・2前	開講せず	2	○		
	災害救護特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学	2	○		
	健康科学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○		
	小計(7科目)	—	—	—	14	—	—
	演習	看護学演習	1通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2		
小計(1科目)		—	—	2	—	—	—
合同研究ゼミナール	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1			○
	小計(1科目)	—	—	1	—	—	—
特別研究	特別研究	2～3通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	8			○
	小計(1科目)	—	—	8	—	—	—
合計(19科目)	—	—	—	11	23	—	—

※療養生活看護学特論については、北海道が開講する(A)または秋田・九州が開講する(B)のいずれかを履修することができます。

標準課程修了までの履修の流れ

1年次

- 共通科目※2科目2単位以上(選択)
看護理論
赤十字人道援助論
臨床倫理論
科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)
科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)
科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)
科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)
科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)
科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)

- 専門科目※1科目2単位以上(選択)
看護人材開発特論
実践看護学特論
療養生活看護学特論
生涯発達看護学特論
広域連携看護学特論
災害救護特論
健康科学特論
- 演習※必修2単位
看護学演習
- 合同研究ゼミナール※必修1単位

2・3年次

- 特別研究※必修8単位
- 研究計画書審査
- 研究倫理審査
- 学位論文審査

博士学位論文の研究発表会

修了要件

標準修業年限(3年)以上在学し、次の所定単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ博士学位論文を提出し、博士学位論文審査と最終試験に合格しなければならない。

以下の①から⑤を満たし15単位以上

- ① 共通科目のいずれか2科目2単位以上
- ② 専門科目から1科目2単位以上
- ③ 「看護学演習」を2単位
- ④ 「合同研究ゼミナール」を1単位
- ⑤ 「特別研究」を8単位

大学院で学ぶこと ～修了生のコメント～

2021年3月修了
助産教育コース(助産教育)

後藤 咲野花

一期一会

大学院では、助産実習や研究を通じて多くの経験を積むことができました。実習では、様々な背景を持つ産婦さんご家族が其々の形でお産に向き合う姿を目にしました。「助産師は黒子である」と言われますが、実習を重ねる中でその所以を理解することもできました。産婦さんが不安を抱えながらお産に向き合う姿や赤ちゃんと出会えた瞬間の産婦さんご家族の表情は今でも鮮明に覚えています。実習での経験が研究にも大きく影響し父親や母親の支援に関する研究に至る動機となりました。研究や講義を通して様々な立場や経験をもつ仲間と学び、また、先生方から多くの助言を得ることで多角的な視点から物事を考える力を養うことができました。

今後は助産師として多くの方を支えられるよう、大学院での学びを糧とし自分の助産師像を追求していきたいと思っています。



2021年3月修了
助産教育コース(助産教育)

山根 麻美

感謝と決意

この度、本学大学院の助産教育コースにおいて無事修了を迎えることができました。共に助産師を目指す4名の仲間や先生方、家族、関わって下さった多くの方々へ心より感謝致します。修士課程での2年間は、かけがえのないものになりました。特に助産実習では、妊産婦や新生児との関わりや分娩介助など多くの経験を通し、妊娠や誕生の喜びと共に助産師として安全・安楽な助産ケアを提供していく責任とやりがいを改めて強く実感しました。課題研究や国家試験への取り組みは大変なこともありましたが、諦めずに続けてこられたのも周囲からの温かい言葉と応援のおかげです。この先もっと大変な出来事もあると思いますが、助産師として妊産婦や患者さん、新しい命にしっかりと寄り添っていけるよう2年間の経験を糧に頑張っていきたいと思っています。



2021年3月修了
助産教育コース(助産教育)

精松 美帆

学び続けた2年間を終えて

大学院で過ごした日々は、今まで感じたことのない程に早いものでした。1年次は助産の基礎を学び、約2か月間実習を行いました。実習中は辛いことも多かったのですが、先生方や実習先の皆様、大学院で共に学んできた友人たち、社会人大学院生の皆様、受け持ちを承諾してくださった妊婦さん、家族に支えられて無事に終えることができました。2年次は自分の深めたいテーマを研究することができました。2年間を通して、助産師として必要な基礎的な知識・能力や働く中で役立つ視点を学ぶことができました。また、自分がどれほど恵まれた環境にいるのかを改めて認識することができ、一回り成長できた実感しています。今後助産師として働く中で困難なことは多々あると思いますが、2年間での学びを最大限に発揮しながら乗り越えていきたいと思っています。



2021年3月修了
看護コース(基盤看護 看護教育)

平野 靖美

大学院で学ぶ魅力

大学院での3年間は自分が無知であることを痛感し、時には劣等感の塊になることもあり、挫折を繰り返していました。しかし、知る楽しさや喜びを感じることも多く、先生方や大学院の同期、領域や博士課程の先輩など周囲の方々のご支援のおかげで進み続けることが出来ました。

また、研究を進めるにあたり、「大航海に挑む」と言われたことがあります。大航海とは言い難く、修了した今でも、航海は続く、探究は続くと考えています。

授業や研究指導などを通して、知識を得る以外にも、自分自身の経験を省察し、今までにはなかった考え方を学ぶこともありました。先生方のお姿から看護教育に携わる魅力を今まで以上に感じた3年間となりました。尊敬する先生方との貴重な出会いなど多くのことを糧に今後も学び続けたいと思います。



2021年3月修了
助産教育コース(助産教育)

山本 千紘

多領域の知識と、継続することの大切さ

私は「助産師になりたい」ただその思いを持って本学の助産教育コースに進学しました。大学院での生活がスタートした当初は自分自身が思い描いていた大学院生活と現実とのギャップに戸惑う日々が続きました。助産師になるための勉強と研究活動を並行して行うことは、決して容易ではなく何度も苦しい思いをしました。しかし、助産の勉強ができる喜びや、他領域の現場で動きながら進んでいる院生と交流することで得られる多くの学びなどを感じることで乗り越えることができました。特に、助産教育コースで共に過ごした友人と日々ご指導くださった先生方の支えがなければ乗り越えることはできませんでした。大学院2年間で得た学びや、自身を鼓舞し継続することの大切さを今後も持ち続けていきたいと思っています。



2021年3月修了
助産教育コース(助産教育)

石橋 慶子

新たな挑戦と発見を楽しむ

私は、他大学を卒業後、助産師を志し、本大学院に進学しました。入学当初は、慣れない環境や学部とは違う学修スタイルに戸惑いましたが、新しいことへの挑戦が楽しくもありました。また、同じ院生である現役ナースとともに授業を受け、様々な考え方や知識に触れることは、新たな気付きや発見に満ち溢れていました。助産実習では、思い描く看護を実践することの難しさを痛感し、葛藤することもありましたが、生命誕生のすばらしさと助産師という職業の魅力を改めて感じる事ができました。二年次から本格的にはじまった研究活動は、新型の感染症流行により計画通りに進めることができるか不安な時期もありましたが、環境に適応する臨機応変さや計画立てて最後までやり遂げる力を得たことはこれからの私を支える大切な財産です。いつも親身になってご指導くださった先生方やかけがえのない学友に本当に感謝しています。



2021年3月修了
看護コース(基盤看護 看護教育)

田原 ゆう子

問いに向き合う苦しさ喜び

私は助産師、看護教員として働いていた現場に山積している課題を少しでも改善したいと研究に取り組みましたが、その結果をもって現場の人の心を動かすことができませんでした。もう一人で乗り越えるには限界があると悟り、学ぶことで創造する力を身につけたいと考え、本大学院に入学しました。

研究では、看護教員が成長していくためには何が必要なのだろうかという問いと向き合い、質的研究に取り組みました。問いに向き合うことは、不確かな自分と向き合うことであり、困難さと向き合うことでもありました。学問を探究する道のりはとても険しいですが、そこに小さな気づきを得ることは喜びでもあります。苦しさの中に見出される気づきが、これからの看護と私の成長に役立つと信じて、これからもあきらめず探究し続けたいと思っています。



大学院で学ぶこと ～在校生のコメント～

自分の成長の機会に

松尾 理恵

看護コース(広域看護 メンタルヘルスケア)

いまから18年前、いざというときに人の助けになりたいという気持ちから看護師を目指しました。看護基礎教育を受けた後に、15年看護師として病院で働きながら通信教育で大学卒業をしました。その後、現在は、主に精神障がい者に対する福祉サービス施設において、生活支援員として、生活訓練に従事する看護師をしています。大学院に入学してから、臨床実践と理論が行ったり来たりする感覚に触れつつあります。自分が無知であることに気付くこともありましたが、まだまだ気づいていない部分もたくさんあると思います。学び続けることや自分に向き合うことは辛く感じますが、頼れる先生方や仲間がいます。この貴重な大学院生活を楽しみながら、自分も成長していきたいと思っています。

広い視野をもつ助産師を目指して

藤井 亜湖

助産教育コース(助産教育)

私は、国籍や社会的背景などにとらわれず、すべての女性に対して、身体的にも精神的にも支援をすることができる助産師になりたいと思い、本学の学部を卒業後、大学院へ進学しました。大学院のカリキュラムでは、周産期の知識や技術だけでなく、周産期をとりまく法律や社会問題、海外の周産期の情勢や異なる文化について学ぶことができるため、広い視野で女性やその家族と関わる力が身に付きます。研究は難しく、経験や知識の未熟さを痛感することがありますが、先生方から細かな指導を受けることができます。また、院生とのディスカッションから新しい発見ができた時の達成感はとても大きいものです。残り一年、助産師を志す仲間と支え合い、私が目指す助産師になれるように学んでいきたいと思っています。

充実した大学院生活

熊谷 かな

助産教育コース(助産教育)

私は本学を卒業後、同大学院に進学しました。入学当初は新型コロナウイルス感染症の影響で対面での授業を行うことができませんでしたが、現在は感染対策を徹底した環境で知識や経験豊富な先生方の下、充実した大学院生活を送っています。その中でも、一年次の助産基礎実習や専門実習では、多くの母児やその家族と出会いその時の関わりを鮮明に思い出すことができるほど深く貴重な学びを得ることができ、私自身が大きく成長することができる有意義な時間を過ごすことができました。この経験を活かしながら周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、今後の残り少ない大学院での生活を乗り多きものにしたいと思っています。

01 科目等履修生



本学の学生以外の方(本学卒業生を含む)が、本学(大学院)が開講している授業科目(一部の科目を除く)を当該年度に限り履修する制度です。履修した授業科目の試験に合格すると、15単位を上限に、単位が与えられます。科目等履修生になるためには所定の選考を経て、入学が許可されます。
※詳細はHPIにてご確認願います。

02 お試し受講



本学の学生以外の方(本学卒業生を含む)が、本学(大学院)が開講している授業科目(一部の科目を除く)を体験受講する制度です。希望する専攻領域の講義をお試し受講してみませんか?
※入試広報課までお問い合わせいただくか、HPIにてご確認願います。

03 入試相談会

2021年度 実施予定日

第1回 7/18 [SUN.]

第2回 8/7 [SAT.]

第3回 11/7 [SUN.]



オープンキャンパスでは入試相談会を実施します。本学大学院に関する質問・ご相談に、個別で応じます。

入試等に関する相談は、随時受け付けています。
問い合わせ先：0940-35-7008(入試広報課)

※状況により日程等が変更となる場合があります。詳細はホームページをご確認ください。



修士課程 大学院生室



講義室A



コミュニケーションスペース



大学院専用フロア

大学院講義室・研究室は、使いやすい専用フロアを設けました。明るく広い研究室は、一人ひとりが研究活動に専念できるように、専用のデスク・パソコンを完備、十分な収納スペースが確保されています。



博士課程 大学院生室

施設紹介

図書館

専門知識の修得や最新情報の入手をサポートする図書館。大学正面のゲート棟に位置し、約5万5千冊を所蔵する、明るく機能的なスペースです。医療・看護系の図書は約6割を占め、専門の知識を深く探求することができます。赤十字に関連した図書および報告書を備えた赤十字コーナーや、災害看護・人道科学関連の図書を備えた特別コレクションコーナーのほか、看護の周辺分野である社会科学や心理学等の図書も充実しています。新着図書コーナーでは、新しく受け入れた図書や学内行事に関連した図書を展示しています。館内には20台のパソコンを備えており、すべてインターネットに接続しています。視聴覚機器も備え、機能面での充実を図っています。



授業風景



実習室



ラーニング・commons



オーヴァルホール



アスティショップ



レストランアスティ

入試情報

看護学専攻(修士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **10**名

取得学位 **修士(看護学)**

修業年数 **2**年(長期履修課程の場合は3年)

募集専攻領域

コース「学位」	専攻領域(分野)
教育・研究者コース 「修士(看護学)」	国際保健・国際看護学(国際看護学・災害看護学、ヘルスプロモーション)
	生涯発達看護学(成育看護学(小児・母性)、成人看護学(慢性)、老年看護学)
	広域看護学(クリティカルケア看護学、精神看護学、在宅看護学)
	基盤看護学(看護管理学、看護教育学、看護倫理学)
CNSコース「修士(看護学)」	在宅看護学、クリティカルケア看護学 ※(精神看護学、老年看護学)
助産コース「修士(看護学)」	助産学

※CNSコース(精神看護学、老年看護学)は設置認可申請中。

入学試験概要

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和3年7月29日(木)～8月6日(金)※当日消印有効	令和3年12月16日(木)～令和4年1月4日(火)※当日消印有効
試験日	令和3年9月4日(土)	令和4年1月22日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※各入試(一般入試・社会人入試・社会人推薦入試)方法により異なります。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	令和3年9月10日(金)	令和4年1月28日(金)
入学申込手続期間	令和3年9月13日(月)～9月24日(金)	令和4年1月31日(月)～2月10日(木)
入学手続締切日	令和4年3月7日(月)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額					摘要
	標準課程		長期履修課程			
	1年目	2年目	1年目	2年目	3年目	
入学金	300,000円		300,000円			入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	400,000円	400,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中
実験実習費(助産・CNS)	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※入学金免除制度の詳細は、大学院募集要項をご参照ください。

奨学金(修士課程・博士課程)

奨学金は、人物・学業ともに優秀な学生が、経済的理由により就学が困難と認められる場合に、学資として貸与または給付される制度です。本学で現在取り扱っている奨学金は次のとおりです。

- 1 日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金 **1名上限100万円**※
- 2 一般財団法人 日本赤十字社看護師同方会奨学金 **総額100万円**
※日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金は3名以内。希望者複数の場合、貸与額調整。

共同看護学専攻(博士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **2**名

取得学位 **博士(看護学)**

修業年数 **3**年(長期履修課程の場合は4年)



入学試験概要

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和3年7月29日(木)～8月6日(金)※当日消印有効	令和3年12月16日(木)～令和4年1月4日(火)※当日消印有効
試験日	令和3年9月4日(土)	令和4年1月22日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※修士の学位を有していなくても出願資格の審査を受け認定されれば受験できます。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	令和3年9月10日(金)	令和4年1月28日(金)
入学申込手続期間	令和3年9月13日(月)～9月24日(金)	令和4年1月31日(月)～2月10日(木)
入学手続締切日	令和4年3月7日(月)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額							摘要
	標準課程			長期履修課程				
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
入学金	400,000円			400,000円				入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	300,000円	300,000円	300,000円	180,000円	240,000円	240,000円	240,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※日本赤十字学園の赤十字看護大学卒業生・修了生は入学金が免除されます。

- 3 独立行政法人 日本学生支援機構奨学金 **第一種・第二種**
- 4 国際看護師協会東京大会記念奨学金 **年間180万円以内**
- 5 小倉一春大学院教育(国際看護)奨学金 **年間60万円※給付**

○応募には、いろいろな応募資格や条件があります。詳細は学務課に確認してください。